

子どもからお年寄りまで ~いきいきと暮らせる地域づくりを目指して~

平野部Aは、平野部における人口減少が比較的ゆるやかな地域を想定しています。アパートや住宅団地ができ、新しい住民が増えてきています。一方、昔から住んでいる住民は高齢者のみの世帯や、ひとり暮らし世帯が増えてきています。このような地域では、まず、新しい住民や若者にいかに地域に関心をもってもらうか、その意識づけが必要だと考えます。今は比較的若い人が住宅団地やアパートに住んでいますが、いずれはその人たちも年をとり、子どもたちは都会へ行ってしまいかもかもしれません。このまま何もしないと「少子高齢化」が必ずやってきます。そうならないために、まずは、いきいきと暮らせる地域をつくること、そして、わかりやすくコンパクトな組織をつくること大切であると考えました。

10年後の理想像

にぎわい

- スマートICで活性化
- 地域の繋がりが強くなっている
- 集会場(カフェ)がにぎわっている
- 振興会がにぎやか
- コンビニがある ● お祭りに露店が出ている
- 地区の中心部がいつもにぎやか
- 空き家が減っている
- 観光客でにぎわっている
- 外国人旅行者の聖地

自然環境

- 川にどじょうやしじみ、魚がいる
- エコビレッジの成果が出ている
- 道路がきれいになっている
- 公園がきれいに整備されている(桜の木の手入れ、草刈りなど)
- 公園(子どもたちの遊び場)充実
- 自然災害への対応の充実

農業

- 農業の担い手、若者の就農者
- 地域内食糧自給率100%
- 営農の存続
- 田んぼの区割りが大きくなっている
- 農業の発展
- えんその復活

健康

- ビンビンコロリ ● 高齢者が仕事をもっている
- 健康寿命の向上 ● ひとり暮らしをなくす
- 年寄りが元気 ● 健康(明るく元気)
- 家庭菜園で健康づくり ● 核家族(長男家族)と交流

生活環境

- 心が豊かで安定感がある社会 ● 笑顔
- 老人の生活環境が安定 ● 障がい者にやさしい
- 南砺市に住み続けたい ● 病人が少ない
- 隣近所と仲良く ● 集落が続いている

仕事

- 遠隔就業、IT通信
- 少人数で仕事ができるIOT、ロボット
- 地区の利益になる事業を実施
- 3~400万円/年の雇用10人
- 自動運転による送迎

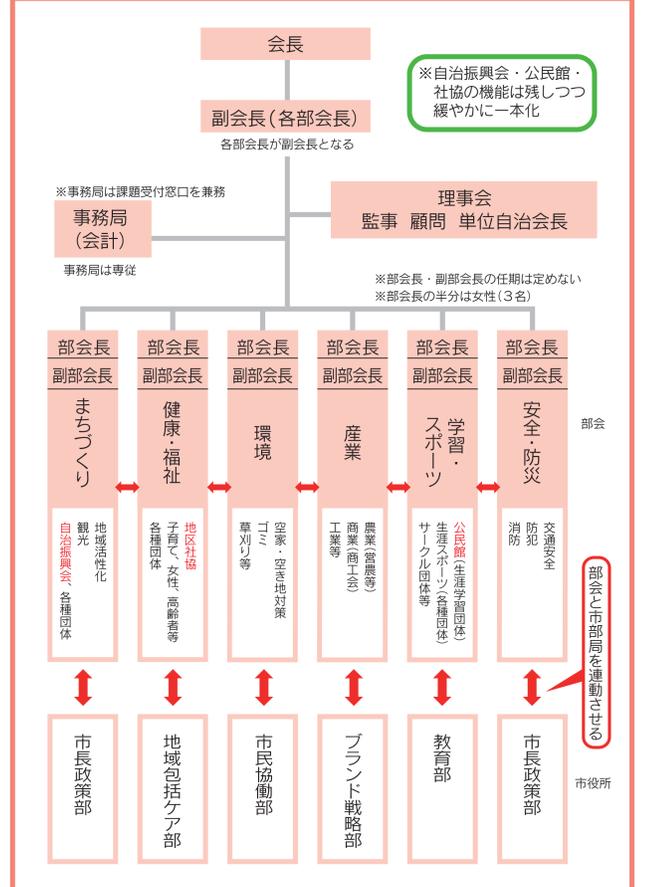
人口・子ども

- 人口増加
- 子どもが増えている
- どこでも子どもの声が聞こえる
- 子ども夫婦のUターン
- 10年後の子ども、若者が生きやすい社会
- 保育園定員2倍
- 移住者受け入れ100人
- 首都圏から若者100人流入
- 産婦人科医院がある

事業

- 地区直営の産直店、支店もあり
- 地区の食堂(レストラン)を運営
- 農作物イベント
- 民間事業者 +20軒

組織



課題と組織・全員参加の仕組みについて

組織の課題

会合が多すぎる／できる人に役割が集中する／組織が機能していない／今までのやり方に執着／課題の洗い出しをしたことがない／役割・責任の明確化／組織の長のリーダーシップが弱い／任期がある(短期間での任期交代)／当て職が多い／目的は違うが組織の数が多い／現在の自治振興会では課題解決できない／組織内のベクトルがばらばら／小さな集落を助けていない／ボランティアでは長続きしない

組織の在り方

組織の見直し、役割分担の明確化／専従職員の配置(有償)／役員の任期を長くする(人材確保・育成)／課題解決できる「有志の会」の発足／相互扶助の音頭取りができる組織づくり／意見が届く組織づくり／上部組織とのしがらみを解く

地域の課題

○住民の意識

自治振興会(地域)に対して関心がない／将来の地域課題について考えていない意見が出て来ない／地域の困り事が見えて来ない／考えを地域に浸透しない／温度差がある／自分の家のことで一杯いっぱい／人のことまで考えられない／自治会に入らない人が増えている／家長制の名残がある／案内(回覧板)が家族にまわらない／地域デビューができていない／対人関係がおもしろくない／行事が多い

○若者・女性の意識

年齢により考え方が違う／若者が行事に来ない／子育てが大変／若い人は地域に関心がない／新住民と現住民との交流がない／婦人会の役が多すぎる／組織に女性が少ない／男性中心の組織

事業

- ◆ (1)介護保険事業B型の取り組みを中心とした事業
①週1サロンの開催(介護保険事業のため確実にお金が入る)…高齢者(車、移動手段がない)／②サロン会場横で農産物直売(移動スーパー)…誰でも(車持っている)／③いきいきサロン(元気な人向けのサロン・クラブ活動)…(車持っている)／④給食サービス…サロン参加者(誰でも)／⑤配食サービス…週1サロンの日のみ希望者に配食／⑥カフェ／⑦農家民泊／⑧こども食堂／⑨放課後児童あずかり(こども広場)
運営主体:①~⑨の運営は元気なおばちゃん、おじちゃんが行う。／第1段階:①中心に活動。②、③の参加者がついて①の送迎を行う。(乗り合わせ)／第2段階:①に合わせて④、⑤を試してみる(20食~30食・有料) ⑧は、夏休み、冬休み等の期間中、サロン日に合わせて実施(有料)／第3

段階:⑥を週1~2回開いてみる(サロン日+α or 土日)
③の中で④ができればようなグループをつくり、やってみる(有料)

◆ (2)水道検針業務の受託

- ①水道検針業務受託料(毎月定額収入)／②高齢者(要支援者の見守り・子どもの見守り)／③道路維持(破損箇所の発見、外灯の破損等の発見通報)／④不法投棄の監視(不法投棄の発見・回収)／⑤有害鳥獣の発見

◆ (3)森林事業の応援

- ①要支援集落の下草刈り、間伐作業の応援(間伐材の買取代金の収入見込みあり)／②花と緑の銀行の活用(補助金制度あり)

若者・女性の参画推進の工夫

- 若者・女性の地域デビューのお手伝い、児童会デビューが手っとり早いかも。(子どももパパ・ママも知り合いに！)
(まずは声かけから。1度地域の皆に覚えてもらえばその後出やすくなる)
- 住民アンケート(1人1票)の実施は必要。アンケート結果は必ず公表すること。また、課題解決に反映させること。
- 部会長の内半数(3名)は、原則女性とする。=女性に責任を与えることで女性の育成を図る。
- 若者・女性の地域への参加の意識を変える(意識改革)
(若者・女性が集まる機会があれば、そこへ役員が出向いて話を聞くとというスタイルもよいのではないかと)

参加を待つ時代は終わった!

今は、こちらから声をかけないと入って来ないのである。

ポイント

(1)このまま何もしないと必ずやってくる「少子高齢化」。それをくい止めるために今から動き出さなくてはならない。
①IJUターン等の移住者を積極的に受け入れる体制を整える…移住体験ツアーの実施、空き家対策(空き家バンクの活用)、子どもの頃から地域のよさを伝え、いつか帰って来ようという意識づけ、結婚・転職・出産等の

人生の節目には南砺に帰ってくるよう話をする機会をもうける／②婚活支援…地域で婚活を推進する／(2)わかりやすく、コンパクトな組織づくり ①別々に活動しているよく似た分野の団体をまとめて部会をつくる。(横のつながりをつくる) ②課題の受付窓口を設置。(問題がおきたらどこに(誰に)相談したらいいのかははっきりさせる。) ③事務局に専従

職員配置／(3)無理のない行事・イベントの開催 ①これまでは別々に開催していたイベントの一本化(例:敬老会+文化祭、運動会+防火訓練、運動会:老人会と婦人会と地区の3つの運動会を1回に等) ②毎年開催ではなく、隔年開催などの工夫